

はじめに

甲府市は、武田信虎公による開府から500年以上にわたる歴史を有し、豊かな自然と都市機能を併せ持つ、住みよく美しいまちです。

とりわけ、人同士のつながりが深い甲府ならではの風土・気質の根幹である人が原動力となり、山梨県の政治・経済・文化の中心地として発展を続けてきました。

近年、私たちを取り巻く情勢は、人口減少・少子高齢化や東京一極集中などによる地域の担い手不足の顕在化、激甚・頻発化する自然災害といった課題に加え、デジタル技術の進展、価値観やライフスタイルの多様化など、大きな変革の時代を迎えています。

こうした中、これからもより住みやすく、より良い環境を未来に引き継いでいくためには、これまで積み重ねてきたまちの個性や先人たちの想いを受け継ぎながら、各種の課題に対し、本市の持つポテンシャルを活かした様々なチャレンジにより、新たな価値を創り出し、持続的に本市を発展させていく必要があります。

そのためには、まちづくりの主体である人が成長を続け、目指すまちの姿の実現に向けて、互いに関わり合う中で、甲府らしい魅力にあふれる地域社会を築いていくことが重要だと考えています。

こうしたことを踏まえ、今後10年間のまちづくりの指針となる、第七次甲府市総合計画をこのたび策定し、新たな都市像を「幸せ実感 希望ある未来を創り続けるまち甲府」と決めました。

この都市像には、甲府に関わる全ての人が幸せを感じ、夢を持って生き生きと暮らすことができる、明るい未来を目指していきたいという想いが込められています。

今後は、この計画を市民の皆様と共有するとともに、多様な主体との連携・協働の力を活かして、各種施策を推進することにより、誰もが幸せを実感できる、希望あふれるまちづくりに邁進してまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をお寄せくださいました市民の皆様をはじめ、多大なご尽力を賜りました総合計画審議会委員並びに関係各位に心から感謝を申し上げます。

令和8年3月

甲府市長 樋口 雄一

